

9月23日(月)

## 感謝の思い

聖書朗読 詩篇 89:15~18

いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。  
エペソ 5:20

老人ホームに入居している、ある102歳の女性がいました。他の入居者たちは、ホームでの生活に不平不満ばかり言っていましたが、この女性は驚くほど感謝の心をもってそこでの生活を送っていました。

彼女はご主人が生きておられた頃、夫婦2人で懸命に働いてきたことを私に話してくれるようになりました。そのご主人は既に亡くなっており、ずっと未亡人で家族もありませんでした。

「私は感謝の気持ちでいっぱいなの。こんな素晴らしい生活の場が与えられ、お世話をしてくれる方々もいてくださるんですもの」。そう言って、私を抱き締め、私の訪問を感謝してくれました。

私はこの老齢の女性の感謝の心が、頭もしっかりして長生きをしていることと何か関係があるのではないだろうかと思いました。

私は、物事をただ当たり前と受け止めていることが多いような気がします。この青い空、青々した草木、豊かな大地、こうしたすべてを見ることの出来る目が与えられていることを、どれだけ神様に感謝しているだろうか。「あなたを愛しているよ」という御声を聞く耳を与えられたことを、感謝したことがあるだろうか。

使徒パウロは、貧しさの中にあっても豊かさにあっても、どんな境遇にあっても主への感謝を忘れず、絶えず神様に感謝を捧げていました。「感謝の姿勢」を実行していたのです。

今日、たとえどんな困難な状況に遭遇しても、それでもなお溢れるばかりの感謝すべき恵みがあるはずなのです。

讃美歌 第二編 167

祈り 愛なる主よ。私たちがこれまで歩んできた道を感謝します。この先必要なものをすべてお与えくださることを感謝します。何より、イエス様に感謝します。

素晴らしきイエス様のお名前によって。アーメン。

ジョアン・クレイトン

ニューメキシコ州 ポータレス

## 今日の力

2013年9月23日～9月29日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

9月24日(火)

## 愛 と 義 な る 神

聖書朗読 詩篇 101編

心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。                      マタイ 5：8

ダビデは、自らの人生を振り返りながら、詩篇101編を記しました。過去を振り返って見る鏡に、バテ・シェバとの姦淫、そして自ら犯したその罪を覆い隠すためにその夫を殺したことについて、ナタンに責められ、神の義が映っているのを見たことでしょう。

けれどもこの時、ダビデは全く清く誠実になることを決意します。神様の助けを求めて、こう叫びます。「いつ私の元へ来てくださるのですか」。そして、約束します。『私の目の前に卑しいことを置きません。私は曲がったわざを憎みます。それは私にまとつきません。』(詩篇101：3)。神様の義により、ダビデはさらに義人とされたのです。

今、自らに問うてみましょう。「神様にそのような約束をしたことがあるだろうか。罪について、それを捨て去るほど憎んでいるだろうか。自らの考えを罪から離し、善なるものと義に目を向けようと決意し、テクノロジーの誘惑に気をつけるようにしているだろうか。自分自身、家族、友人、同僚、国税局に、自分は誠意をもった対応をしているだろうか。赦されているだろうか」。

多くの恵みを数えるとき、義と愛なる神様に讃美を捧げましょう。

讃美歌 262

祈 り 主よ。私の魂をあなた様に委ね、あなた様の御名を賛美します。どうか私たちに近づき、私たちを心の清い者、そして全く誠実な者としてください。  
イエス様のお名前によって。アーメン。

リチャード・N・アディ  
オレゴン州 グレシャム

9月25日(水)

## 主 を 褒 め 称 え よ

聖書朗読 詩篇 104：24～35

私は生きているかぎり、主に歌い、いのちのあるかぎり、私の神にほめ歌を歌いましょう。                      詩篇 104：33

私たちは詩篇104篇33編の後半の箇所を、どれだけ心に留めているでしょうか。「いのちあるかぎり」には多くの意味が込められています。私たちは年を取れば、死について思いを巡らすことが多くなるのは当然のことでしょう。けれども、私には、この節はただ死について書かれたものとは思えません。肉体の死だけでなく、内面の健やかさについても書かれているものと思われます。ある人が神様に祈りを捧げる際に、「心の平静さ」を神に感謝しますとお祈りしていたのを覚えています。

展望を見失うことによって、人生はより困難となるでしょう。意気消沈し、そのような日々はとても長く、ストレスを抱え、もはや明確なものは何もない、そんな時私たちは、それが神様のご計画であって、私たちの繁栄のため、私たちが役立つ存在となるため、そして主にある目的のために起きているのだと悟ります。自らの内に神様への信仰が刻まれた私たちは、困難にあっても耐えることが出来るのです。たとえその日がうまくいかなくても、心の平静さによってこの真理を悟り、重荷をすべて降ろすことの出来るお方、父なる神に目を向けることができるのです。

この聖書箇所により、私は日々自らの存在と心の平静を主に感謝することを思い出すのです。

讃美歌 79

祈 り 親愛なる主よ。困難の只中にあるとき、どうか、心を平静に保ち、あなた様の助けを求め、感謝の思いを持つことが出来るようにしてください。  
イエス様のお名前によって。アーメン。

アンドレア・ニモンズ・スミス  
フロリダ州 ジャクソンビル

9月26日(木)

## あなた様の恵みを悟る

聖書朗読 詩篇 112:1~6

その人は主から祝福を受け、その救いの神から義を受ける。 詩篇 24:5

私たちはどんな日であっても、数え切れないほどの恵みによって困難も覆われてしまうのではないのでしょうか。神様はどんな困難でも恵みに変えることの出来るお方です。

私は、目が見えること、文字を読み書き出来ること、友人からの電話、台所で作ったスープ、家中を心地よい香りで満たすこと、様々なことを神様に感謝します。

私の家の窓から、近所の方が盲導犬と散歩をしているのが見えます。私は、彼のこの盲導犬を有り難いと思い、今住んでいる町では、汚染もなく、澄んだ空気を吸うことが出来ることを感謝します。

夏には、玄関に座って、空に漂う白い雲を眺めるのが大好きです。雲を見ていると、イエス様が雲に乗って、御自らを主と唱えられ、再臨されることを思うからです。

『野の木々もみな、手を打ち鳴らす。』(イザヤ55:12)のを見て、それを私は喜びます。ここに挙げたことは単純な日常の事柄に過ぎないかもしれませんが、私が抱えている問題はその喜びによって小さくなり、こうした恵みをいただくときに、困難はさらに小さくなっていくのです。

讃美歌 525

祈り 親愛なる主よ。あなた様の恵みを決して当然のこととして受けることがないようになしてください。あなた様の素晴らしい御名が崇められますように。イエス様の尊きお名前によって。アーメン。

ジョアン・クレイトン

ニューメキシコ州 ポータレス

9月27日(金)

## 誰の責任？

聖書朗読 詩篇 127編

主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなしい。 詩篇 127:1

リーダーシップを学ぶクラスでよく使われるのは、「成るべくして成るのなら、それは私の責任」ではないでしょうか。勿論、その根底にあるのは、個人の責任、イニシアチブということであって、私たちのこの世の歩みにおいて現される神様の創造の御力とご意志という観点からも貴重な考え方と言えるでしょう。

詩篇の著者は、さらに視野を広げた見方をしています。私たちが、身を粉にしていくら計画を立て、努力をし、労力を使ってみても、神様の恵みから離れてはすべて空しいものです。ご在天の父こそ、私たちに与えられた神のご計画を成し遂げようとするときに、平安をもたらし、それを達成し、完成させてくださるお方なのです。子どもたちや、先代から受け継いできた賜物も同じです。

ヤコブの祈りをもって、日々の賜物に近づきましょう。『主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。』(ヤコブ4:15)」

私たちの側に立ってくださったのは、主ではなかったか。  
敵の怒りが、生きる私たちを飲み込もうとしたとき、  
私たちの側に立ってくださったのは、主ではなかったか。  
私たちを決して諦めない主を褒め称えよ。  
決して揺らぐことのない主の御愛を褒め称えよ。  
罫は壊れ、私たちは逃れた。  
私たちの助けは主の御名による。  
主を褒め称えよ。

—————デビー・ドルマン

讃美歌 267

祈り 親愛なる神様。呼吸をしていることも、いかなる機会も、あなた様の恵みと御愛の賜物であることを私たちが認め、自ら行う事すべてにおいて、あなた様の恵みを求めることが出来るようにしてください。あなた様のご臨在とお導きの中で、自らを建て、慎重な目で見、努力し、子どもたちを育てることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ブルース・エヴァンス

テキサス州 アビリン

9月28日（土）

## 信 仰 が 試 さ れ る と き

聖書朗読 詩篇 130編

私は主を待ち望みます。私のたましいは、待ち望みます。私は主のみことばを待ちます。  
詩篇 130：5

「待つ」というのは、あまり望ましいことではないですが、何とかやり過ごして行かなければならない現実ではないでしょうか。日々「待つ」ことを強いられてはいませんか。信号で、病院の待合室で、コンピューターを立ち上げるとき、レストランのウェ이터がなかなかお勘定を持ってこないとき。たいてい、何かをするのと同じくらい待たされる時間があるのではないのでしょうか。

「待つ」という中に、さらに好ましくないものもあります。自分が恐れを抱いているとき、何らかの脅威に脅かされているとき、また、その先どうなるか分からない時などは、「待つ」のが最も辛い時ではないのでしょうか。けれども、そのような時こそ、信仰が試される時なのです。すべてがうまく行っている時に、神様を信頼するのは信仰ではありません。先が全く見えないような状況にあって神様を信頼することこそ、信仰なのです。

神様の約束が恵みとなることを待ち望むとき、思いを集中させることは大切です。祈り、聖書の学び、そして、神様のご契約が語られた聖書の箇所特に集中すること。そうすることによって、恐れによって身動きが取れなくなるということもなく、いかに生きるかということに集中することができるでしょう。人生の旅路を進めましょう。疑いの心が生じたら、それは脇へおいて、神様のご契約を覚えて、そのご契約が必ず成し遂げられるという信仰を持って歩みましょう。

讃美歌 316

祈 り ご在天の主なる父よ。どうかあなた様に目を向けて、待つことのできる忍耐をお与えください。試練や困難に遭うとき、どうか私を信仰に立ち返らせ、不安を消し去ることが出来るようにしてください。  
イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ケリー・ウィリアム

アーカンソー州 ジョーンズボロ

9月29日（日）

## 信 仰 的 な 考 え 方

聖書朗読 詩篇139：1～12

あなたにとっては、やみも暗くなく、夜は昼のように明るいのです。暗やみも光も同じことです。  
詩篇 139：12

信仰的な考え方は成長させる必要があります、それによって逆境に遭った時のための備えが出来るのです。先日ある漫画の1コマにこんなものがありました。病院の乳児室で祖父母達が孫を見えています。そこで、あるお祖父さんがこう言います。「どうして赤ん坊はみな、こんなに泣いているんだろうね」。すると、他のお祖父さんが、出口のドアの上に掲げられたサインを指差します。そのサインにはこう書かれています。「警告：ここを過ぎたら、不公平な人生が待っています」。

詩篇が書かれた時代も、絶えず問題がありました。詩篇の著者が示唆している点は、問題を正しい見方で見続けることです。詩篇139篇1～12では、私たちが経験する苦しみなど神様は顧みることなどないという嘘を、私たちから遠ざけてくれる真実が語られています。神様から私たちを隠すものは何もないということを感じましょう。

詩篇の著者は63編で、助けを必死に求める姿を記しています。けれども、彼は知っているのです。導きと慰めとを与え、真に耳を傾けてくださるお方が誰であるかを。また、彼は、いかなる問題も、神様への信仰を弱めてしまうほどに、大きくさせないようにしていました。絶望的で厳しい試練を通じて、どんな逆境の中にあっても、常に忠実であり続けてくださるお方がどなたであるかを彼は知ったのです。

讃美歌の繰り返しの箇所にはこのような節があります。「主のみもとのほか、私はどこへ行くことができるでしょう。」

讃美歌 270

祈 り 主なる神様。信仰的な考え方を持ち続けさせてくださり感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ラリー・カイン

カリフォルニア州 ユバシティ